

令和5年度

事業計画

付 令和5年度予算の説明



日本赤十字社 大阪府支部
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。



基本方針

1.はじめに

日本赤十字社は、1877年の博愛社創設時より、国内外での人道支援活動をはじめ、医療事業や血液事業、社会福祉活動等、様々な社会課題やニーズに応じた事業を展開し、その使命を果たしてきました。しかしながら、創立140年が経過し、日本赤十字社が置かれた環境は大きく変わり、自然災害の増加や甚大化はもとより、人口の偏在や格差の拡大、グローバル化、情報通信技術の発達等が進み、これらの動きは加速していくことも想定されます。こうした不確実性の高い社会環境下にあっては、より人道ニーズに柔軟に対応できる赤十字への変革が求められ、これまでの常識や経験、考え方にとらわれない抜本的な改革や見直しにチャレンジしていく必要があります。

2.「長期ビジョン」の趣旨と位置づけ

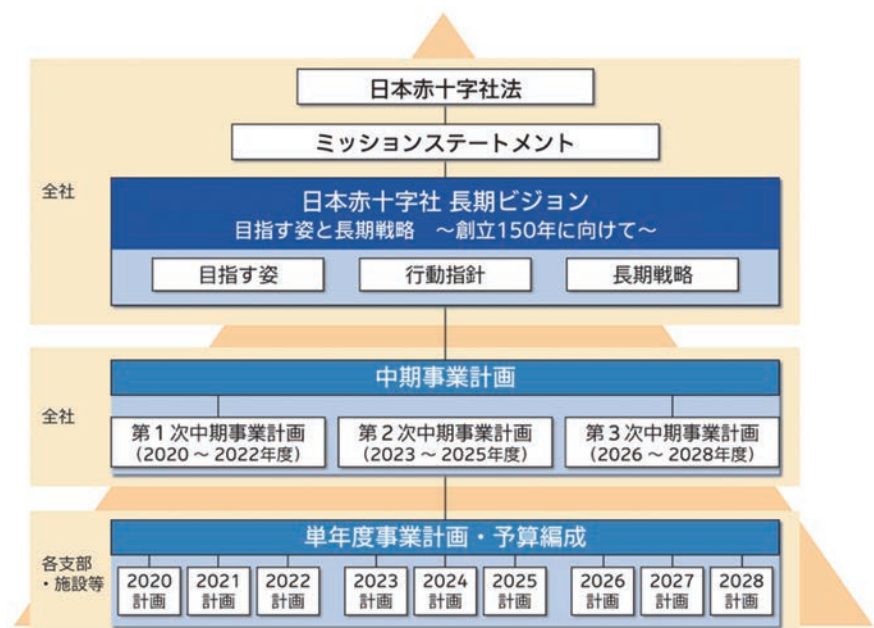
日本赤十字社がこれからの社会課題やニーズに柔軟に対応し、地域の期待に応え、創立150年に向けてその使命を果たし続けていくため、令和元年に「日本赤十字社長期ビジョン」を策定しました。

日本赤十字社が目指す姿「国内外における人道支援活動の“要”となり、我が国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字」を社内外に示すことで、組織の進むべき方向性の集束・横断的な結束を高め、より多くのパートナー（会員、ボランティア、寄付者等）の理解・協力を得ながら、更なる赤十字運動（ムーブメント）の推進を図ります。

また、この長期ビジョンに基づいて、本社・支部・赤十字病院・血液センター等において、より継続性・一貫性を持たせた効果的な中期事業計画や単年度事業計画の策定、予算編成等につなげていくものです。

3. 本計画の基本方針及び位置づけ

本社が策定した長期ビジョン及び中期事業計画に基づき、日本赤十字社大阪府支部の単年度事業計画を策定しています。2023年度（令和5年度）も本計画に基づいて様々な赤十字活動を展開します。



目次

01. 事業について — P.4

国内災害救護



P.4

国際活動



P.5

赤十字ボランティア



P.6

青少年赤十字



P.7

救急法などの講習



P.8

医療事業



P.9

看護師の養成



P.9

社会福祉



P.10

血液事業



P.10

02. 運動基盤強化について — P.11

地域活動の推進

活動資金の募集

事業実施体制等の整備

03. 一般会計予算 — P.12

令和5年度予算の説明



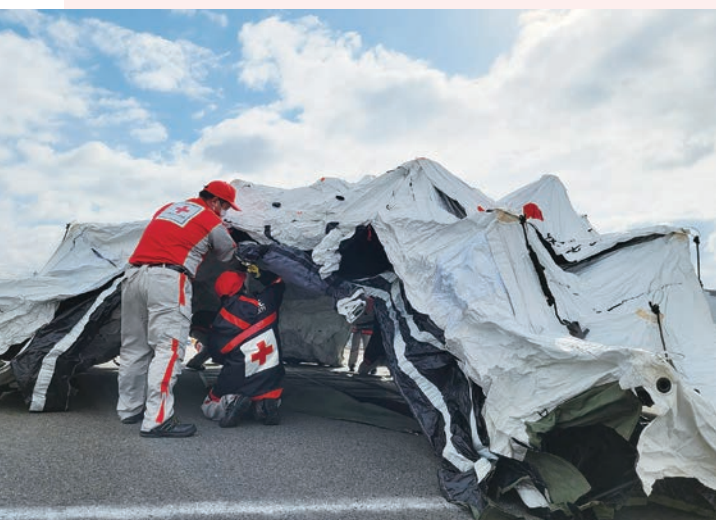
国内災害救護



豪雨災害で被災した地域に救援物資を搬送する日赤職員



災害救護訓練に参加し、患者の処置を行う救護班
(大阪市総合防災訓練)



救護用テントの組み立て訓練を行う日赤職員

新型コロナウイルス感染症がまん延している状況下においても大地震、台風、集中豪雨等の自然災害が発生する「複合型災害」に対し、感染防止対策を徹底しながら、迅速かつ効果的な救護活動ができるよう、災害救護体制の一層の充実強化に取り組めます。

国内災害救護に活用する金額

4,240万円

災害救護訓練の実施・参加及び 行政・防災関係機関との連携強化



15回

- ・第4ブロック（近畿）合同災害救護訓練
- ・行政機関主催の救護訓練
- ・その他団体主催の救護訓練

救護員研修会の実施と救護員の養成



14回



240人

- ・救護員基礎研修会（オンデマンド配信）
- ・救護員実技研修会
- ・救護員ステップアップ・dERU※1研修会
- ・こころのケア研修会
- ・災害対策本部要員研修会
- ・救護資機材習熟研修会

医療救護活動のための資機材の整備

- ・赤十字業務用無線基地局  1基
- ・救護用テント外幕交換  1張
- ・X線撮影装置  1台
- ・災害救護用ノートパソコン  1台
- ・その他救護員用装備
(モバイルソーラー電池等) 

※1 dERU (domestic Emergency Response Unit) : 国内における大規模災害等で医療救護活動を行うことを想定した、緊急仮設診療所用の資機材と要員。



国際活動

国際救援や開発協力等に活動できる人材の育成及び確保に努め、本社からの要員派遣要請に迅速に対応します。また、本社が支援している海外赤十字・赤新月社等の事業に、当支部からも資金を拠出して支援するとともに、職員等を派遣し、人的協力にも努めます。

国際活動に活用する金額

100万円

国際救援要員の養成

質の高い国際救援要員を養成するため、次の研修に参加します。

- ・ 国際救援・開発協力要員研修  1回
- ・ 安全管理研修  1回
- ・ 保健医療 ERU^{※2}研修  1回
- ・ 安全管理ワークショップ  1回

国際救援要員等の海外派遣

 本社から派遣要請があった際には、要員を調整し、派遣します。

開発協力事業への参画

インドネシア・コミュニティ
防災強化事業

 100万円

※2 保健医療 ERU (Emergency Response Unit) : 診療所や巡回診療 (地域保健等を含む 1 次医療) と手術・入院設備を備えた医療施設 (2 次医療) の機能を持った資機材と要員。



(C) IFRC/Victor Lacken

ウクライナ隣国モルドバに倉庫の管理責任者として派遣された日赤職員 (ウクライナ人道危機)



(C) Maksym Trebukhov/Ukrainian Red Cross

救援物資の準備をする赤十字ボランティア (ウクライナ人道危機)



学校で防災について学ぶ子どもたち (インドネシア・コミュニティ防災強化事業)



赤十字ボランティア



高齢者施設で演芸を披露する芸能奉仕団員

地域に根ざした活動を行っている赤十字ボランティアが、世代や分野を越えて連携し、地域課題の解決に向けて活動できるよう引き続き支援するとともに、ボランティア活躍の場の拡充を図ります。

赤十字ボランティアに活用する金額

2,654万円



身近なものを使った応急手当を伝える防災ボランティア

地域・特殊・青年赤十字奉仕団の特色を生かした活動

- ・各奉仕団、個人ボランティアの主体的な活動
- ・赤十字ボランティアのつどいの開催
- ・基礎研修会、リーダーシップ研修会、合同委員長研修会など各種研修会の実施



防災ボランティアを中心とした防災・減災活動の推進

- ・地域での「赤十字防災デー」の実施
- ・「親と子の防災セミナー」の開催
- ・災害ボランティアセンター運営支援にかかる研修等への参加



防災啓発にかかる展示や資材の配布を行う赤十字防災デー

災害に備えた他団体との連携・協働によるボランティア活動の場の拡充

- ・おおさか災害支援ネットワーク (OSN) 世話役団体としての活動
- ・大阪災害支援活動連携会議への参加





青少年赤十字

次世代を担う若年層が赤十字運動に参加し、赤十字活動を推進することができるよう、教育現場のニーズに即した青少年赤十字活動の展開、メンバー（児童・生徒）や指導者（教員）の育成を図ります。

青少年赤十字に活用する金額

1,348万円

青少年赤十字メンバー、指導者の育成

- ・リーダーシップ・トレーニング・センターや指導者養成講習会の開催
- ・高校生メンバーを対象としたボランティア活動体験の実施



学校における青少年赤十字活動の推進

- ・防災教育、国際理解・平和学習、SDGsやキャリア教育などの出前講座の実施



青少年赤十字創設 100 周年記念誌の発行

- ・日本における青少年赤十字活動は、2022年に創設100周年を迎えました。大阪府内で実施した100周年事業などをまとめ、広報活動の充実を図ります。



リーダーシップ・トレーニング・センターでレクリエーションを楽しむ中高生



国際交流事業で世界の赤十字の仲間とオンラインでつながる高校生



国際理解の出前講座にて赤十字の説明をする日赤職員



救急法などの講習

救急法などの講習を通じて、いのちと健康を守る知識と技術を広く府民の皆様に普及し、健康や安全に対する意識の向上、さらには自助共助の取組の促進を図ります。

救急法などの講習に活用する金額

3,818万円



心肺蘇生やAEDの使い方を指導する救急法指導員



溺れている人の救助方法を指導する水上安全法指導員



自宅での介護方法を学ぶ受講者

救急法



260回



7,200人

水上安全法



37回



1,300人

健康生活支援講習



66回



1,000人

幼児安全法



103回



1,600人

防災セミナー



30回



1,000人



医療事業

大阪府内には、大阪赤十字病院と高槻赤十字病院の2つの病院があります。当支部は、両病院と協調・連携を図りながら、総合的調整のもと医療事業を推進しています。

また、災害時には医療救護班を迅速に被災地へ派遣するための体制整備や、災害救護及び救急医療用医療機器等の整備に助成します。

医療事業に活用する金額

95,663万円

災害救護及び救急医療用医療機器の整備助成

- ・ MRI 装置  1台
- ・ エコー装置  2台

地域医療に貢献するために必要となる 病院機能強化にかかる整備助成

- ・ ハイケアユニット (HCU) の新設と
脳卒中ケアユニット (SCU) の増床整備 
- ・ 病棟改修 (アメニティの向上) 
- ・ 手術関連の医療機器等の整備  など



新型コロナウイルス感染症患者の
受け入れ対応を行う日赤職員 (大阪赤十字病院)



看護師の養成

当支部では、優秀な赤十字看護大学生の修学支援を目的とする奨学金制度を設け、将来病院において指導的な役割を担う看護師の養成に努めます。

看護師の養成に活用する金額

409万円

高度医療を担う看護師の養成

- ・ 日本赤十字社大阪府支部奨学生  15人程度



ナースキャップを受け取った看護学生 (戴帽式)



社会福祉

大阪赤十字病院附属大手前整肢学園は、医療型障がい児入所施設として大阪赤十字病院の診療部門各科並びに検査部門と密接に連携し、高度な医療サービスを提供しています。



クリスマス会で園児を楽しませる日赤職員

社会福祉に活用する金額

60万円



血液事業

当支部では、大阪府、各市町村、大阪府赤十字血液センターと連携を図りながら、幅広い年齢層の人々に献血の理解を深め、協力いただけるよう情報を提供しています。

府内の医療機関で必要な血液製剤をより安全に安定的に供給できるよう、採血用ベッドの整備に助成します。



街頭で献血の呼びかけを行う青少年赤十字加盟校の学生

血液事業に活用する金額

134万円

採血受入機関の整備助成

・採血用ベッド



7台



地域活動の推進

地域の赤十字奉仕団が地域ニーズに応じた活動を推進していきます。



活動資金の募集

地域赤十字奉仕団のご協力による地域に根差した活動資金の募集を基盤として、利便性、ニーズに配慮した活動資金の募集方法を強化し、新たな協力者の確保に努めます。また、社会貢献活動に取り組む企業・団体とのパートナーシップ事業を推進するとともに、遺贈・相続寄付の受け入れを行っている団体としての広報活動に努めます。

地域住民をはじめ法人・団体など多くの会員の皆様には、積極的に情報の提供を行い、赤十字運動にご理解ご協力いただくよう努め、財政基盤の安定化を図ります。



効率的、効果的な活動資金の募集

- ・ダイレクトメールによる依頼 年3回
- ・遺贈・相続財産による協力案内 等
- ・広報誌（日赤大阪等）の配布



法人とのパートナーシップ

- ・各専門機関との連携
（大阪司法書士会及び各金融機関等）
- ・寄付金付自動販売機の設置



赤十字会員への広報

- ・情報誌等の発送 年2回



地区・分区との連携強化



大阪日赤有功会※3との連携



大阪府赤十字大会の開催

※3 大阪日赤有功会は赤十字への活動資金協力やボランティア活動によるご功績により有功章を受章された方々で構成され、当支部を支援する団体です。



事業実施体制等の整備

赤十字事業の実施及び円滑な運営を図るため、職員の育成、大阪赤十字会館の適正な管理に努めます。



職員の育成

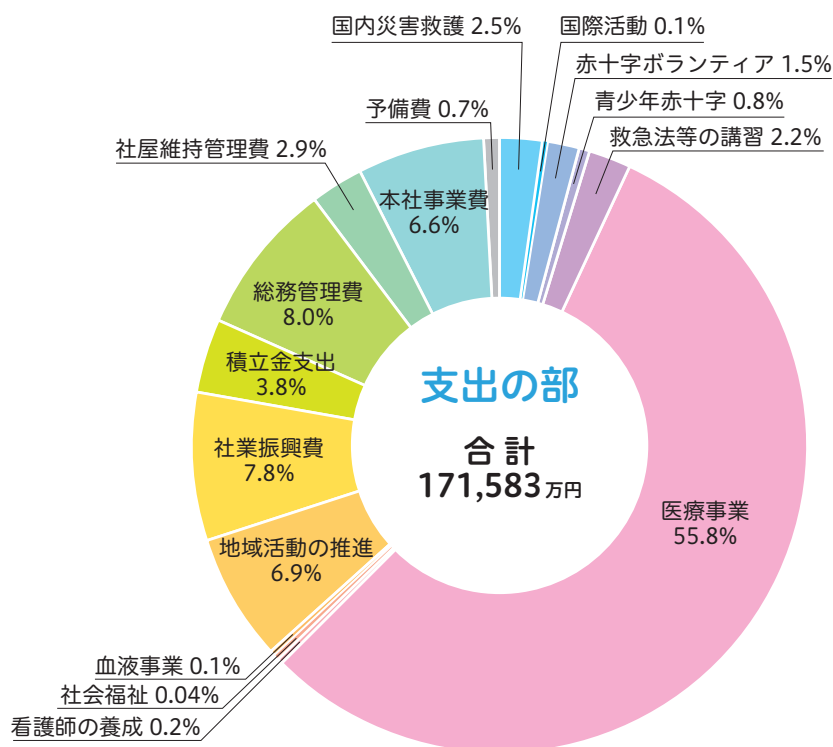
多様化するニーズに対応し得る専門性や総合的に判断できる視野を有する職員を育成するため、研修を計画的に実施します。また、支部・赤十字病院・血液センターのグループ力を高めるために日頃から連携を図り、人事交流を推進します。



大阪赤十字会館の適正管理

当会館は、災害時のロジスティクス中継基地に指定されています。昭和50年に建設後、50年近くが経過する中、会館の施設設備には老朽化が認められ、機能維持のために会館の継続的な維持管理・修繕が必要となっています。そのため、平成30年度に今後20年間に亘る中長期修繕計画を策定し、建築コンサルタントの厳格な監理のもと、効率的な修繕を行っています。

令和5年度予算の説明

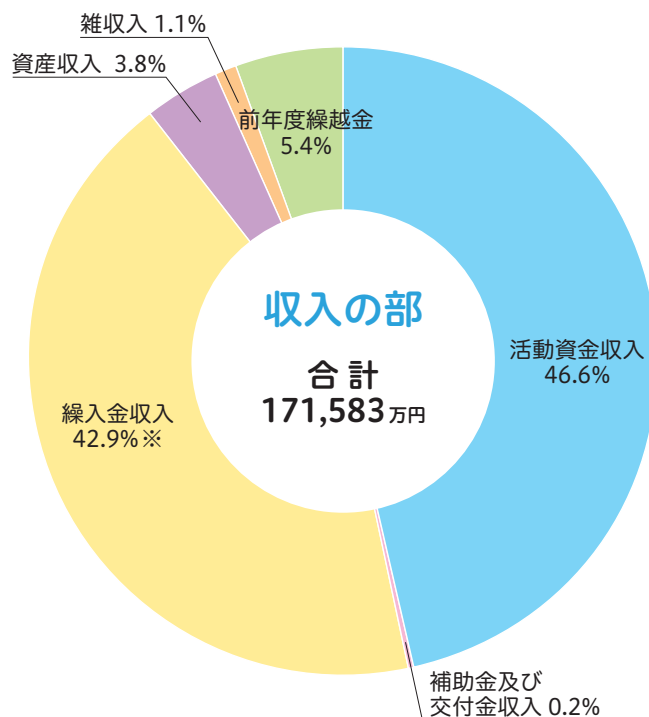


支出の部

	(万円)
国内災害救護	4,240
国際活動	100
赤十字ボランティア	2,654
青少年赤十字	1,348
救急法等の講習	3,818
医療事業	95,663
看護師の養成	409
社会福祉	60
血液事業	134
地域活動の推進	11,860
社業振興費	13,372
積立金支出	6,517
総務管理費	13,762
社屋維持管理費	4,935
本社事業費	11,258
予備費	1,453
合計	171,583

収入の部

	(万円)
活動資金収入	80,000
補助金及び交付金収入	335
繰入金収入	73,594
資産収入	6,441
雑収入	1,889
前年度繰越金	9,324
合計	171,583



※ 令和3年度に当初の見込みを大きく上回る活動資金収入があったことから、管内施設の施設整備のために積立ました。令和5年度にこの積立をもとに病院機能強化にかかる整備助成を行うため、積み立てた資金の一部を取り崩すこととしたことから、繰入金収入が大きく増加しています。

(注) グラフ内の割合 (%) については、合計が100%にならない場合があります。